

令和6年度 第1回益城町地域公共交通会議

日 時：令和6年（2024年）6月26日（水） 10:00～11:00

場 所：益城町役場 会議室2-4、5、6

出席者：18名（欠席4名）

内容：

1. 開会

事務局より、会議成立報告および資料確認。

2. 会長（副町長）挨拶

- 委員の皆様方においては、お忙しい中、本会議にご出席いただき、厚くお礼申し上げる。
- 熊本地震から8年が過ぎたところだが、これまで国や県のお力添えをいただきながら、復旧・復興事業に全力で取り組んできた。
- 今月、町制70周年の記念式典を開催できた。本会議委員の中にも、式典にご出席いただいた方もおり、感謝するとともに今後ともよろしくお願ひ申し上げる。
- 先週月曜日に梅雨入りが発表され、例年より遅い梅雨入りとなり、短期間での集中的な豪雨が心配されている。昨年、被害を受けたような豪雨が発生しないことを祈りつつ、町としても早めの非難や対策に努めてまいりたい。
- 前回会議では、木山広安コミュニティバスの実証運行等について、ご審議いただいた。その審議結果をふまえ、木山広安コミュニティバス実証運行を開始している。本日は、その利用状況も含めて事務局よりご報告する。
- 今年2月に益城町コミュニティ交通の愛称を募集し、「UME らいん」と決定した。今後、この愛称を広く周知し、多くの方にご利用いただけるよう取り組んでいきたい。
- 長時間となるが、皆様方の忌憚のない審議をお願い申し上げて挨拶の言葉とさせていただきたい。

3. 委嘱状の交付

会長より、代表委員へ委嘱状を交付

4. 委員及び事務局紹介

5. 副会長指名

会長より、副会長を指名

6. 議事

(議案第1号) 益城町地域公共交通計画の変更について

事務局より、資料1-1、1-2に沿って説明

- 第1号議案について賛成・承認

(議案第2号) 地域公共交通確保維持改善事業にかかる計画（案）について

事務局より、資料2に沿って説明

会長)

- 補足事項として、昨年までは木山広安循環線も補助対象となっていたが、今回から福田地区デマンド型乗合タクシーのみが補助対象となる。
- 津森地区でもデマンド型乗合タクシーを運行しているが、幹線バスが運行しているため補助対象とならない。

- 第2号議案について賛成・承認

7. 報告

(1) 益城町コミュニティ交通の愛称「UME らいん」の決定について

(2) 「UME らいん」の利用状況について

事務局より、資料3および資料4に沿って説明

委員)

- コミュニティバスの運行を受託しており、バス運転手から、逆方向に行きたいときに不便なため内回り・外回りの運行があればよいという利用者からのご意見を伺っている。
- デマンド型乗合タクシーについて、便数が決まっているため対応できているが、タクシーの運転手が不足しているため、これ以上便数を増やすと運行が厳しくなる。現在の運行内容で継続できればと考えている。

委員)

- デマンド型乗合タクシーの運行において、福田地区も津森地区も利用者数が落ちているが、便数は現状のまま継続したいと思っている。
- 利用者が固定化しているので、これから新規利用者が増えてほしいと思う。

(3) AI オンデマンドバスの導入検討について

事務局より、資料5に沿って説明

委員)

- 10月からAIオンデマンドバス実証運行を開始予定とのことで、メリットについては説明いただいたが、心配点についても考えなければいけない。財政面のことは心配なさそうであったが、その他にも懸念点は多くある。
- 現在、他自治体でも同様の施策を導入しているが、停留所の数が多すぎると考えている。公共交通であることから、タクシーとの住み分けをする必要があるのではないかと思っている。ジャンボタクシーでの運行予定としているが、それなりの道幅がないと通行できない道路もあると考えている。
- 午前中の利用が多いことが想定される。予約が重なった場合、近くの利用者で同じ方向への予約なら良いが、逆方向への予約になると不便が生じる等の話も聞いている。

委員)

- コミュニティバスの課題をスピードに対応する姿勢は素晴らしい感じている。一方で、AIシステムはランニングコストがかかると聞いている。現場の運転手や地元の交通事業者と連携した運行が望ましいところだが、地元ではない事業者に資金を提供することになるところも懸念すべき点だと思う。
- 利用者数によっては、AIシステムを利用しないほうがよい可能性もある。
- Maas関係の補助金を活用予定とのことだが、補助金が継続して活用できるかなどもしっかりと検討して持続可能な公共交通にしていただきたい。
- 利用者目線では、一度利用することで慣れていくとは思うが、最初は使い方を丁寧に説明することが重要であると考える。

委員)

- 時間の定めがないフルデマンドということで非常に利便性が高い運行形態となる。タクシー事業者の運転手が不足する状況もふまえて、どこまで対応可能なのか調整のうえ、検討していただきたい。
- 福田地区・津森地区のデマンド型乗合タクシーは時刻が設定されているので、町内全体における公共交通のバランスを考えて、範囲をどこまでにするのか等を含め、施策検討を進めていただきたい。また、バス事業者やタクシー事業者とも協議のうえ、検討していただきたい。

事務局)

- 様々なご意見をいただき感謝申し上げる。AIオンデマンドバス導入に向けて、これから運行内容を検討していく段階のため、交通事業者とも協議し、バスやタクシーへの影響を考えながら検討を進めていきたいと考えている。
- ジャンボタクシーでの運行を検討しているので、道路状況等の現地確認を行いながら、導入の準備を進めていきたい。
- 現在、応募している国の共創・Maas実証プロジェクトは、令和7年2月までのシステム導入に係る経費や利用料等が補助対象となる。今後、実証運行から本格運行へ移行した場合、運行状況次第でフィーダー補助の対象となる可能性もある。持続可能な交通体系となるよう検討していく

たい。

- 福田地区と津森地区において、既にデマンド型乗合タクシーが運行しているが、町内の公共交通バランスを考えつつ、交通事業者と連携をとりながら今後も運行を継続していきたい。

会長)

- AI オンデマンドバスの導入検討について、貴重なご意見をいただいたので、重要な関係者と協議しながら検討を進め、次回の地域公共交通会議に具体的な運行内容を示していただきたい。

8. 事務連絡等

事務局より、以下について連絡

- ・次回の地域公共交通会議を8月に開催予定。詳細については、別途周知する。

9. 閉会

以上